企業名：　　ウシオ電機

レポート名：　USHIO Report 2022

1.　この会社が目指している将来の姿が理解できるか

非常に理解できる。将来の姿を語るのに、多くの枚数が割かれていた。

「未来は光でおもしろくなる」というキャッチコピーのもと、光のイノベーションを通して社会の課題を解決していくという姿勢が示されている。具体的には、紫外線や可視光、赤外線などの研究によって開発した最先端の技術を、再現可能な技術へと昇華させ、社会への価値を創造していくという。地球温暖化や食糧問題、健康寿命の延伸など、全世界共通の社会課題の解決が期待される。

将来の大まかな目標だけでなく、比較的近い将来である 2020 年から 2030 年の中期的な目標についても中期経営計画と題して語られている。第一次で収益構造転換、第二次で投資と育成、第三次で安定利潤の獲得を目指す。

2 つの将来について具体的かつ情熱的に述べられている点のおかげで、ウシオの目指す姿を非常に理解しやすかった。

2.　この会社の現在の競争優位性が理解できるか

非常に理解できる。創業以来、「あかり」だけでなく「エネルギー」としての光の可能性を見出して社会課題の解決や技術革新に貢献してきた。1960 年代には日本で初めてハロゲンランプを開発し、1980 年代には世界で初めてエキシマランプを発明した。さらには 2010 年代に光配向装置を開発するなど、ここでは紹介しきれないほど光に関する技術革新を成し遂げてきた。売上高も創業以来ほぼ右肩上がりに上昇し、現在では 1488 億円にのぼる。

そんな長い歴史の中で、ウシオは着実に独自の強みを磨き上げてきた。例えば、光がまだ「あかり」としてしか使われていなかった時代から、ウシオは光の可能性にいち早く気づき、現在に至るまで光を操る技術や光で課題を解決する技術を開発してきた。これだけでなく、自己資本率 73%を誇る強固な財務基盤などによっても現在の競争優位性を生み出している。

3.　その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

理解できる。途中まで唯一持続性にだけ不安が残るとしてレポートを作成していたが、それは私の見落としであり、しっかり持続性についても触れられていた。

ウシオは統合報告書の中で、価値創造を続けるためには強みを持続的に発揮し続ける仕組みが重要とし、次のことを特に重視している。それは、広範な学術領域の人材拡充、社会課題探索力の強化、知財戦略、ソフトウェアの人材不足・資金の有効活用、パートナー戦略・自前主義からの脱却の 5 つである。それぞれに詳しい説明がなされており、それぞれに対

する取り組みを現在強化していることから、持続性があると判断できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

できると思う。儲かるかより、社会に求められるかを判断基準にすると明言している。加えて、会社の繁栄と社員一人一人の人生の充実を一致させることを 4 つの基本方針のうちの 1 つに掲げている。もし私が、ウシオで就職したら会社ひいては社会に貢献できているというやりがいをもって働けると感じた。やりがいをもって働くことができれば自己の能力向上のための努力も惜しまず、結果的に人的資本の価値向上を達成できるだろう。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

一貫して、光を「あかり」としてだけでなく「エネルギー」としても捉え、光のイノベーションを起こすということを掲げており、主張が頭に残りやすかった。そして一貫して文字から熱い情熱が感じられた。私が普段統合報告書を読む習慣がないからかもしれないが、USHIO Report 2022 は構成や内容、熱量という観点から、非の打ちどころのない最高の統合報告書だと感じた。

もしも 1 点だけ強いて挙げるとしたら、USHIO Report 2022 は 49 ページととても長いので、より多くの人の目に触れるためにはもう少しだけコンパクトにする必要もあるのかなと感じた。